

令和2年12月

令和2年 10月 ~ 12月期 実績
令和3年 1月 ~ 3月期 見通し

中小企業景況調査報告書

岩手県商工会連合会

目次

主要景況項目の動き	2
業況天気図	3
全産業の推移	4
製造業の推移	7
建設業の推移	11
小売業の推移	15
サービス業の推移	19
全産業の過去データの推移 * 平成15年1月以降	23
[集計資料]	

D・Iとは

D・Iとは、ディフュージョン・インデックスの略です。これは、企業経営者の景気動向を表す指標として利用されています。

算出方法は、増加（上昇・好転）企業割合から減少（低下・悪化）企業割合を差し引いたものです。

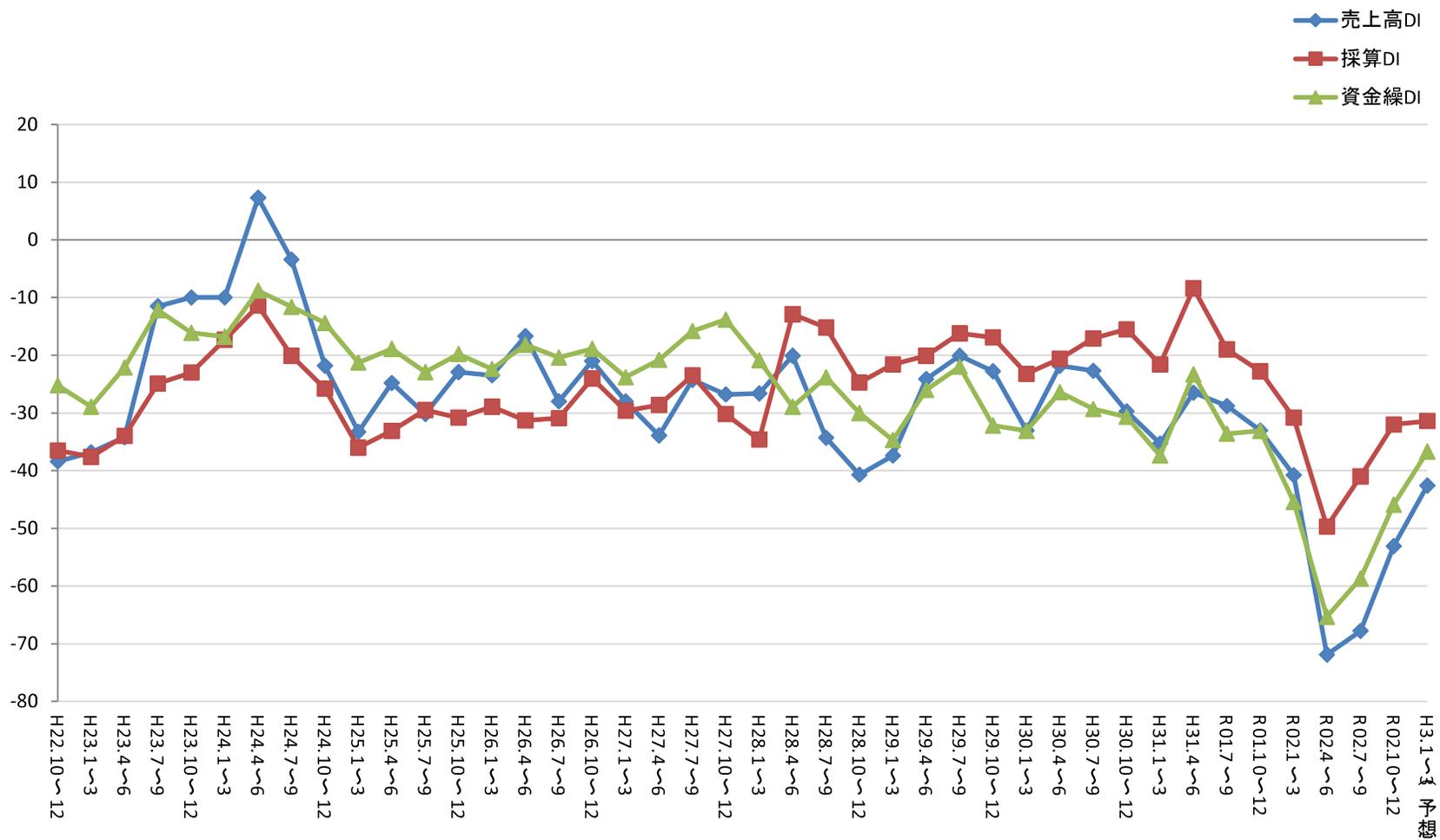
D・Iがプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）、原材料または商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。

プラス、マイナス同数の場合はD・Iはゼロになります。

たとえば、売上高増加企業50%、不変企業30%、減少企業20%の場合、D・Iは $50 - 20 = 30$ となり、全体として経営者の売上高に対する強気の度合いを表しています。

[岩手県 産業全体]

主要景況項目の動き ー前年同期比ー



業 況 天 気 図

業 種 \ 期 間	平成31年	令和元年			令和2年				(見通し)
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	令和3年 1~3月
製 造 業	 曇	 曇	 曇	 曇	 雨	 雨	 雨	 雨	 曇
建 設 業	 曇	 薄曇	 雨	 雨	 薄曇	 雨	 雨	 雨	 曇
小 売 業	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨
サ ー ビ ス 業	 雨	 曇	 曇	 曇	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨

売上高DI	100.0 ~30.1	30.0 ~10.1	10.0 ~△ 10.0	△ 10.1 ~△ 30.0	△ 30.1 ~△ 100.0
表 示	 快晴	 晴	 薄曇	 曇	 雨

全産業の推移

売上高

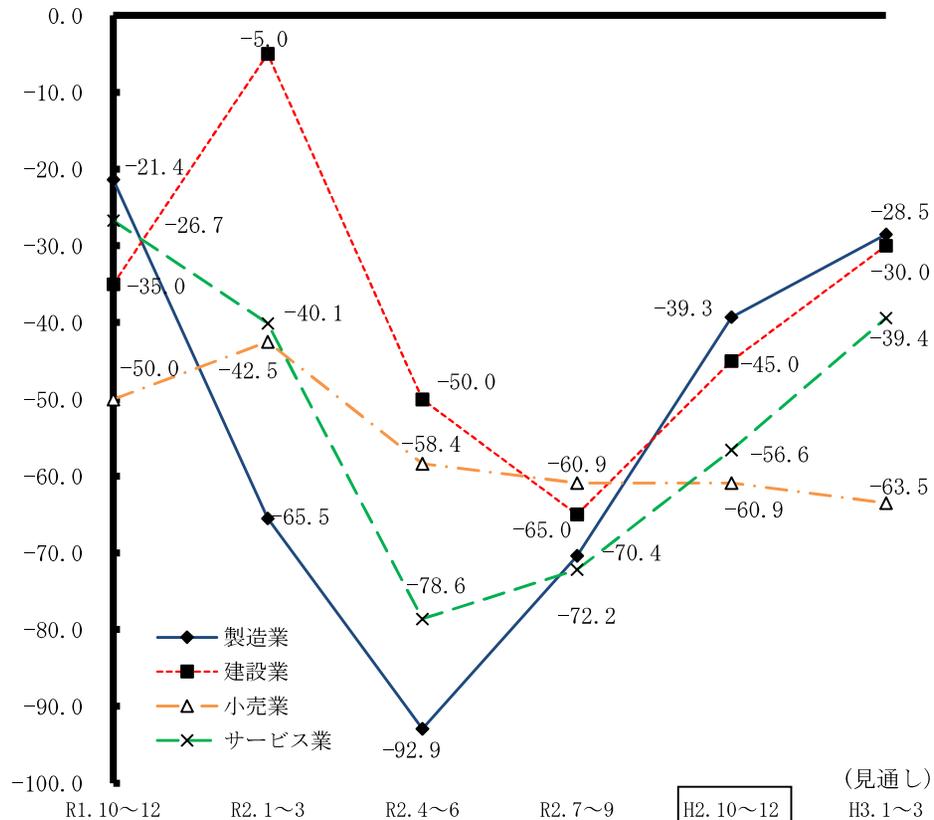
製造業、建設業、サービス業において上昇 小売業は横ばいにとどまる

今期は、2期連続して低下していた建設業が上昇に転じ、20.0ポイント増の△45.0まで回復しました。また、製造業、サービス業が2期連続の上昇となり、製造業は31.1ポイント上昇の△39.3となり緊急事態宣言前の3月期を上回るレベルまで回復しました。サービス業は15.6ポイント上昇の△56.6まで回復しています。

前期まで2期低下していた小売業は、今期は横ばいにとどまり、△60.9となっています。

来期は、小売業は小幅な低下が予想されているものの、製造業、建設業、サービス業においては売上高D・Iが引き続き大幅に上昇することが見込まれております。

※ 建設業の売上高は完成工事高



全産業の推移

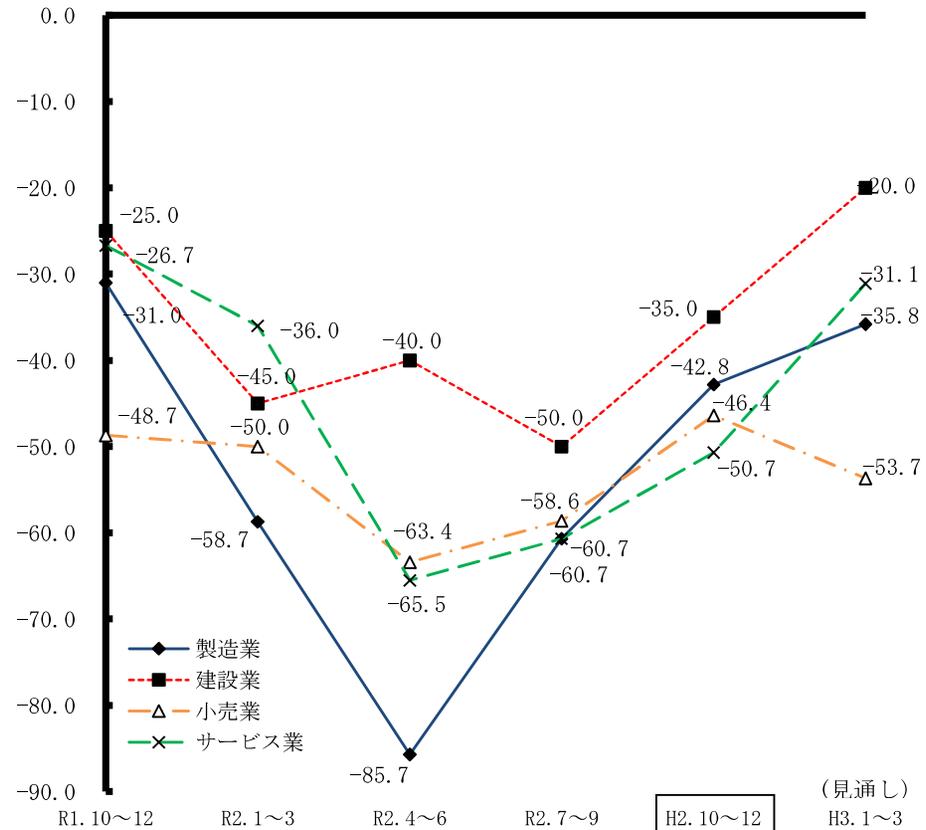
採算

全業種において採算D-Iが改善

今期は、製造業、小売業、サービス業において2期連続の改善となり、製造業が17.9ポイント上昇の△42.8、小売業が12.2ポイント上昇の△46.4、サービス業が10.0ポイント上昇の△50.7まで改善しています。前期悪化に転じていた建設業は今期上昇に転じ、15.0ポイント上昇して△35.0まで改善しています。

来期は、製造業、建設業、サービス業において引き続き改善が見込まれるものの、小売業においては悪化に転じることが予想されています。

※ 採算は各業種とも経常利益



全産業の推移

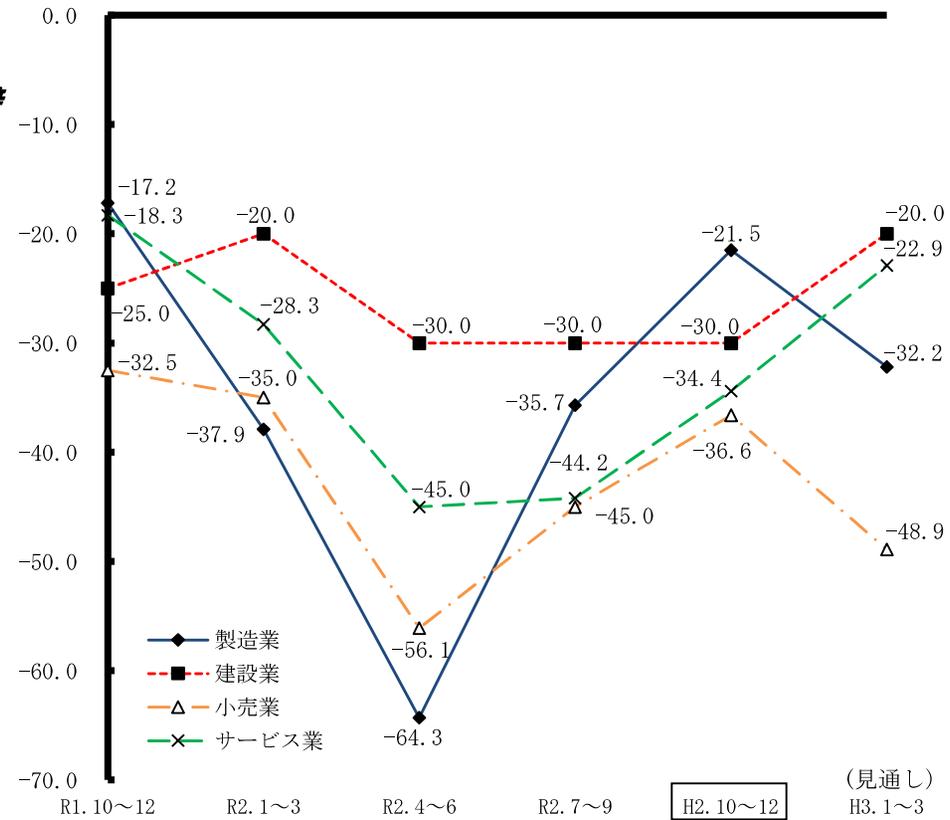
資金繰り

**製造業、小売業、サービス業で資金繰りが改善
建設業は横ばい**

今期は、製造業、小売業、サービス業において2期連続の改善となり、製造業が14.2ポイント上昇して△21.5、サービス業が9.8ポイント上昇の△34.4、小売業が8.4ポイント上昇して△36.6までそれぞれ改善しました。

建設業は2期連続して横ばいの△30.0、となり、今期も改善基調には至りませんでした。

来期は、建設業、サービス業は改善が見込まれますが、製造業、小売業においては再び悪化に転じると予想されています。



製造業の推移

売上高

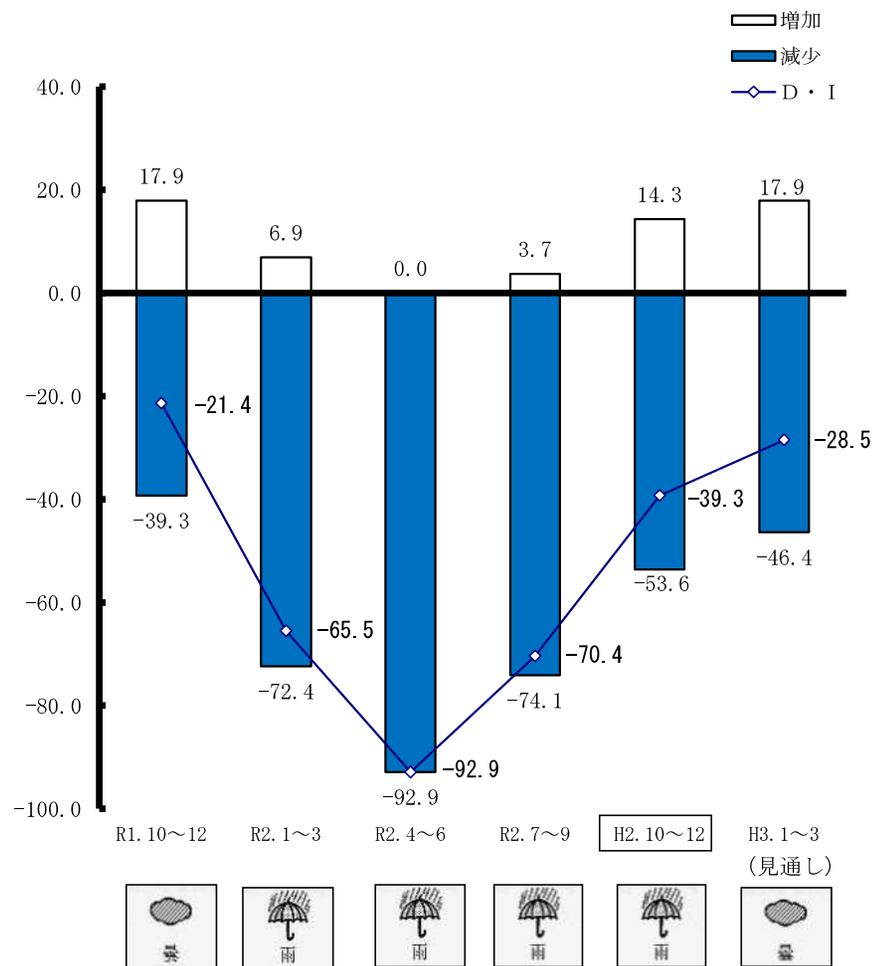
<今 期>

<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が増加し、また、売上高減少企業の割合も減少したことから、売上高D・Iは31.1ポイントの大幅な上昇となり、マイナス幅を大きく縮小して△39.3まで回復しています。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合が引き続き増加し、また、売上高の減少を予想する企業割合も引き続き減少することが見込まれ、売上高D・Iはマイナス30を上回り、景況天気図も雨から曇へと変化することが



製造業の推移

採算

<今 期>

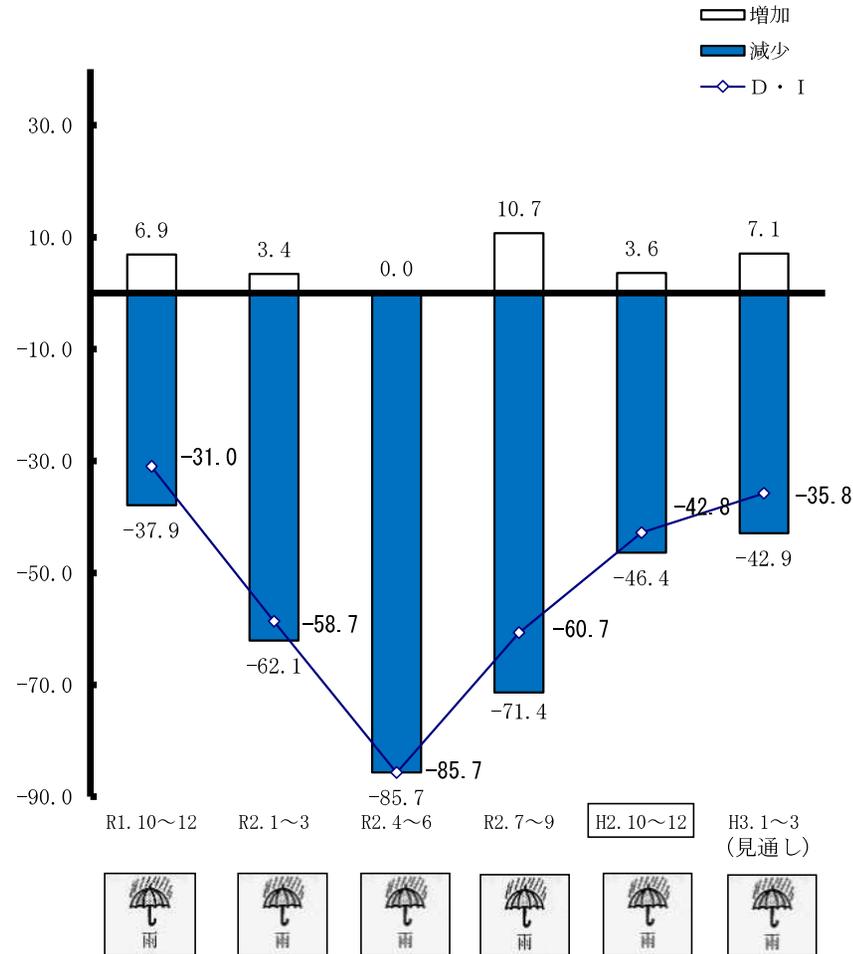


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が減少したものの、採算が悪化した企業の割合が大幅に減少したため、採算D・Iは17.9ポイント上昇し、△42.8まで改善しました。

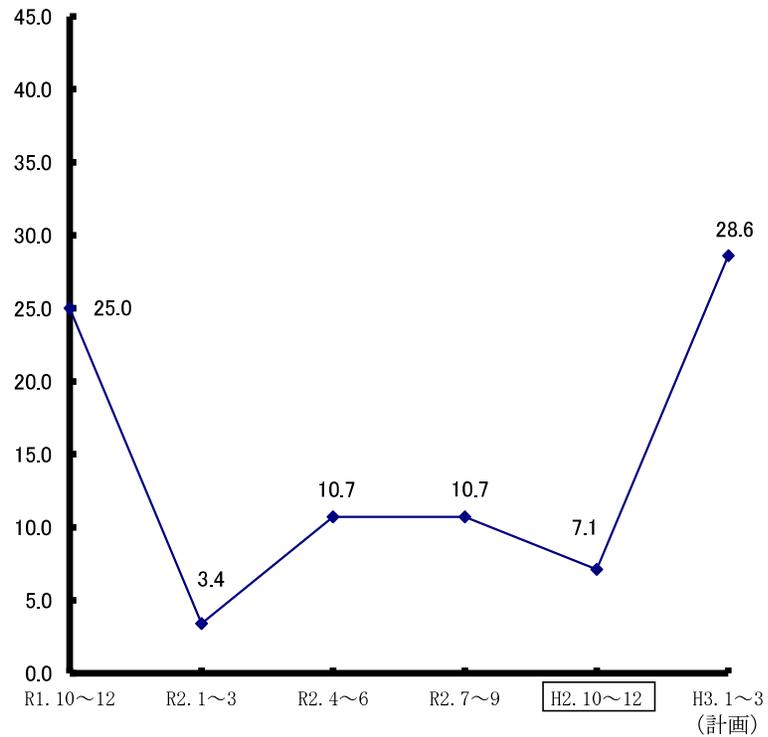
来期は、採算の改善を予想する企業が増加し、採算の悪化を予想する企業割合も減少することが見込まれることから、採算D・Iは3期連続



設備投資

2期連続して10.0を上回っていた設備投資を実施した企業数の割合は、今期は減少となり、7.1となっています。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は大幅に増加し、28.6まで



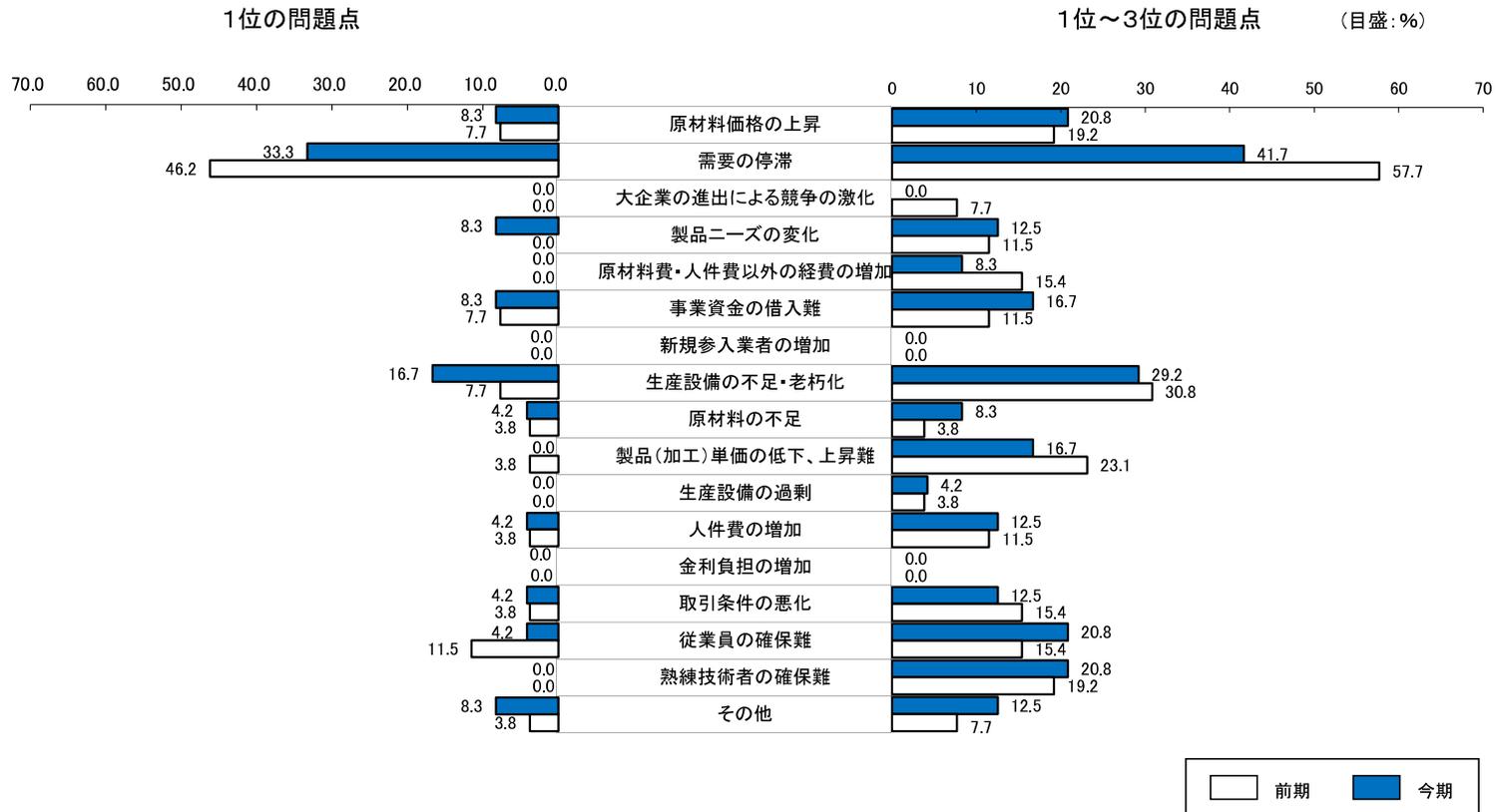
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

製造業の推移

経営上の問題点

岩手県 製造業

経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)



建設業の推移

売上高

<今 期>



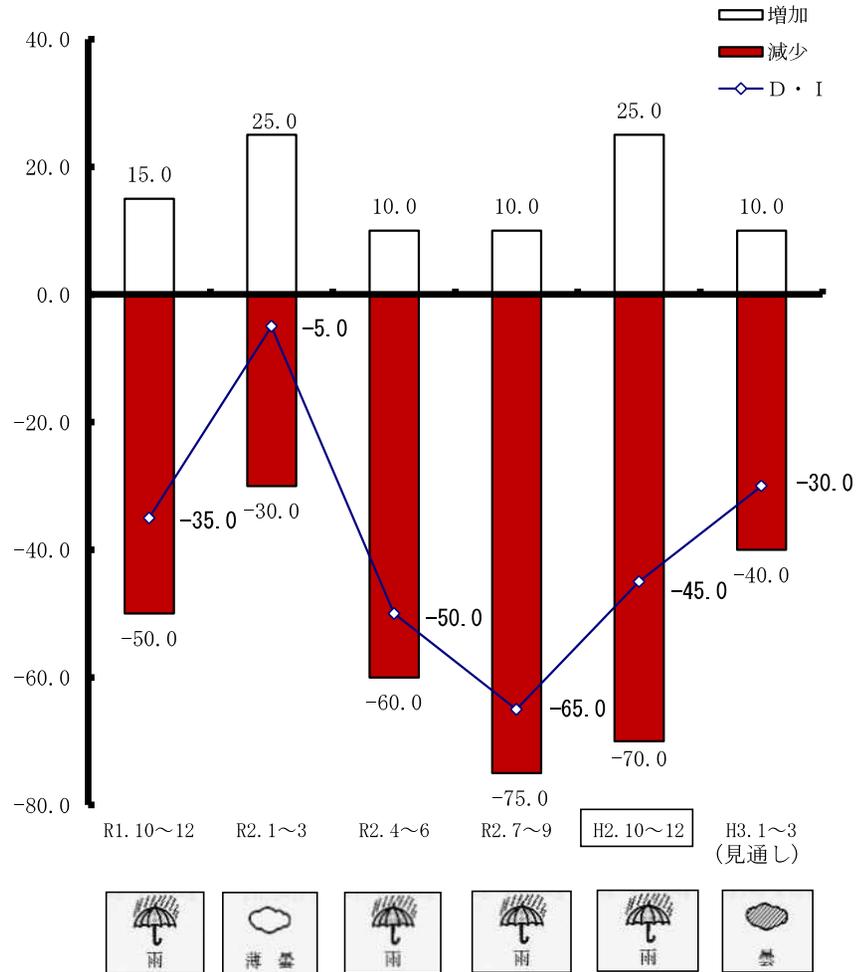
<来期見通し>



今期は、売上高が増加した企業割合が15.0ポイントの大幅な増加となり、また、売上高が減少した企業割合が5.0ポイント減少したことにより、売上高D・Iは上昇に転じ、△45.0まで回復しました。

来期は、売上高の増加を予想する企業の割合が減少するものの、売上高の減少を予想する企業の割合が大幅に減少すると見込まれるため、売上高D・Iは今期に引き続き上昇してマイナス30まで回復

※ 建設業の売上高は完成工事高



建設業の推移

採算

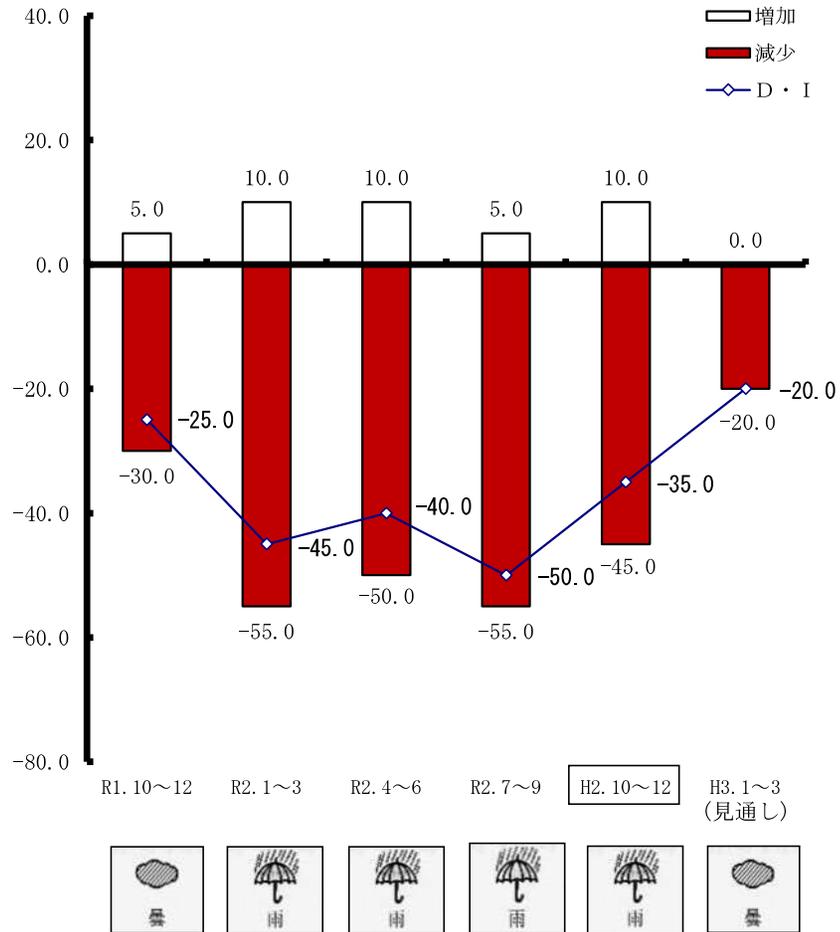
<今 期>

<来期見通し>



今期は、採算好転を挙げた企業の割合が5.0ポイント増加し、また、採算が悪化した企業の割合が10.0ポイント減少したため、採算D・Iは15.0ポイントの上昇となり、35.0まで改善しました。

来期は、採算の好転を予想する企業がゼロまで低下するものの、採算の悪化を予想する企業割合が大幅に減少したことから、採算D・Iは引き続き改善してマイナス30を上回り、景況天気図も雨から曇へと変化



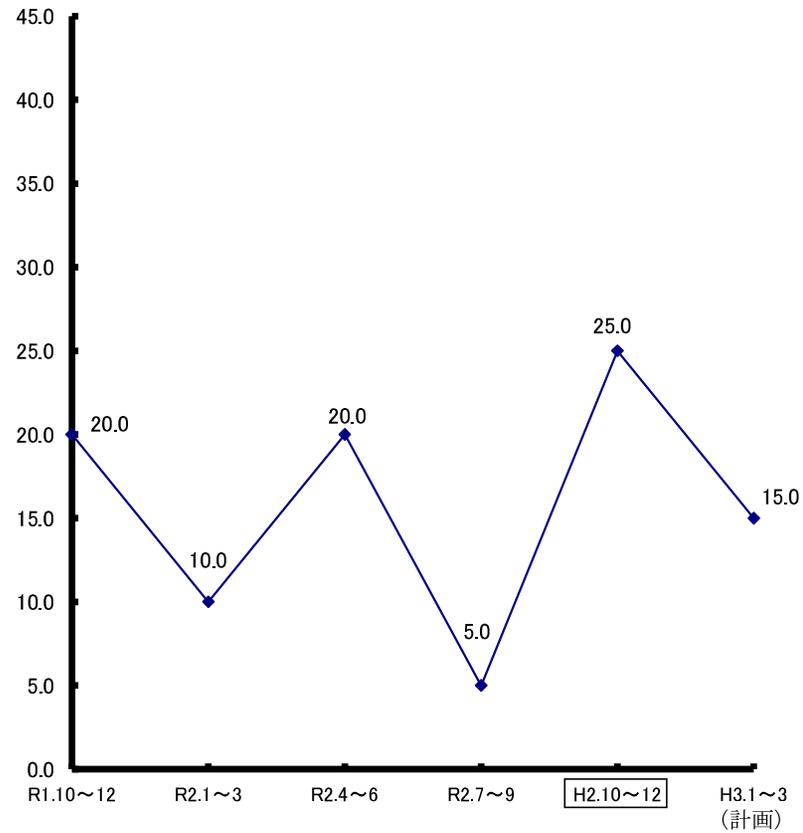
建設業の推移

設備投資

今期、建設業において設備投資を実施した企業数の割合は、前期に比べ大きく増加して25.0まで上昇しました。

来期は設備投資を実施する企業数の割合は減少に転じることが見込まれ、15.0まで低下する見通しで

(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

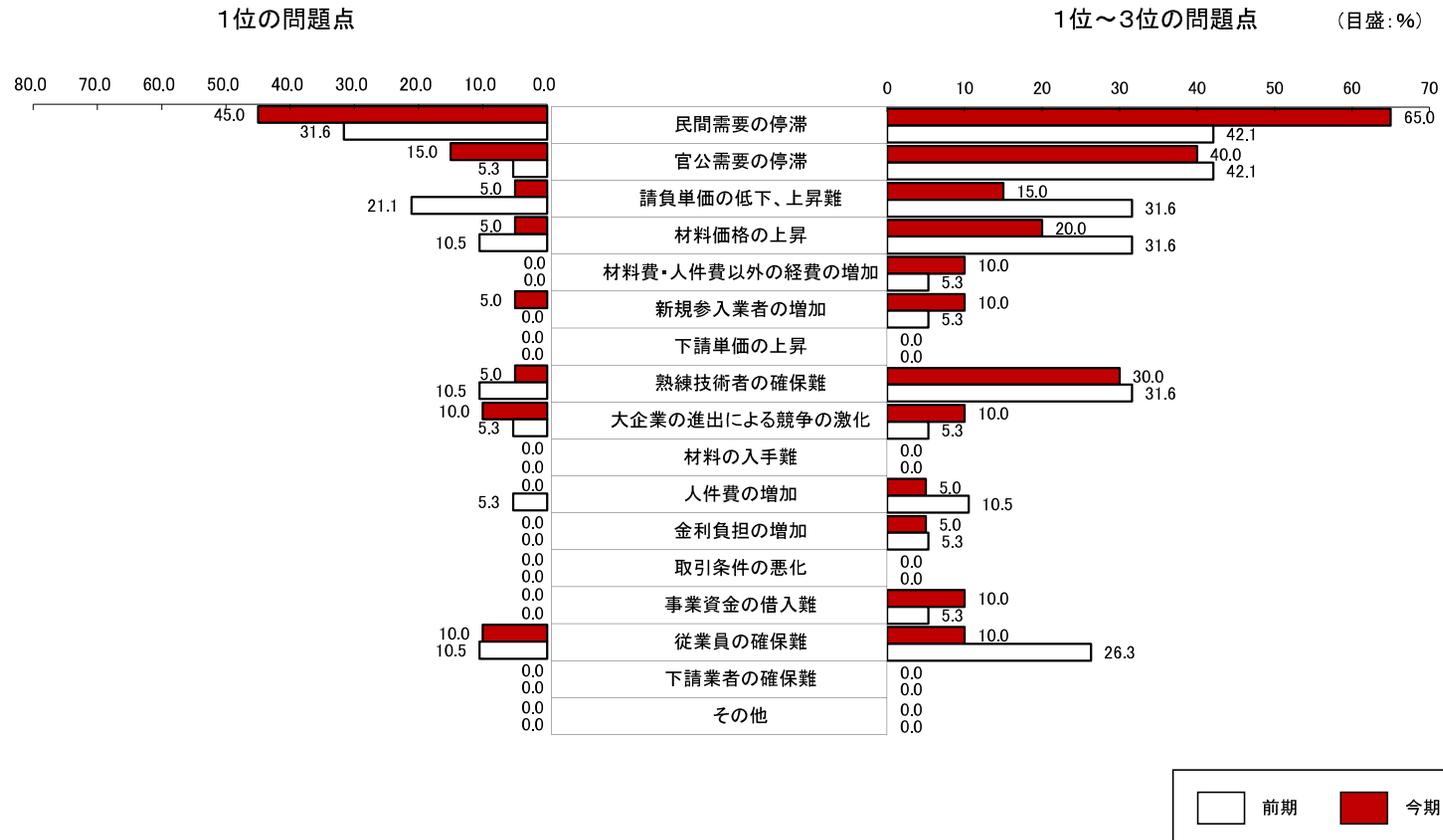


建設業の推移

経営上の問題点

岩手県 建設業

経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)



小売業の推移

売上高

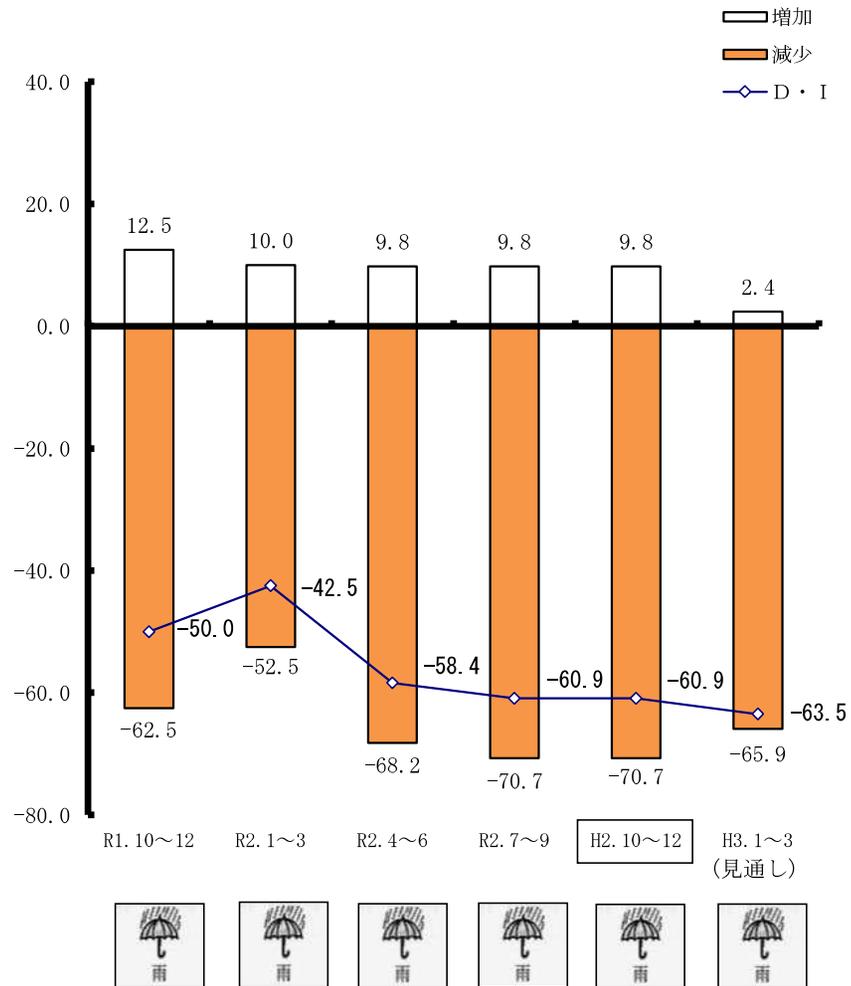
<今 期>

<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合、売上高減少企業の割合がいずれも前期と同じであったため、売上高D・Iは前期と同じ $\Delta 60.9$ となり、2期連続してマイナス60を下回るレベルとなっています。

来期は、売上高減少を予想する企業割合は減少するものの、売上高増加を予想する企業割合の減少がこれを上回



小 売 業 の 推 移

採 算

<今 期>

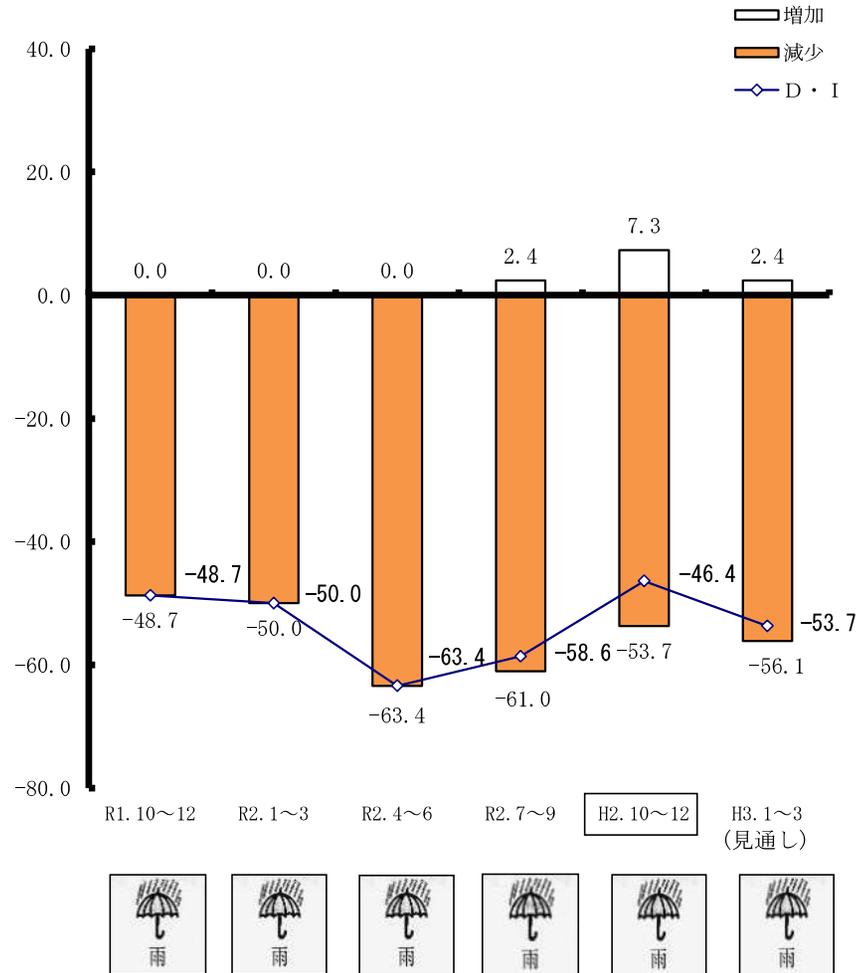


<来期見通し>



今期は、採算が好転した企業の割合が4.9ポイント増加し、また、採算が悪化した企業割合が、7.3ポイント減少したため、採算D・Iは2期連続の上昇となり、△46.4まで改善しました。

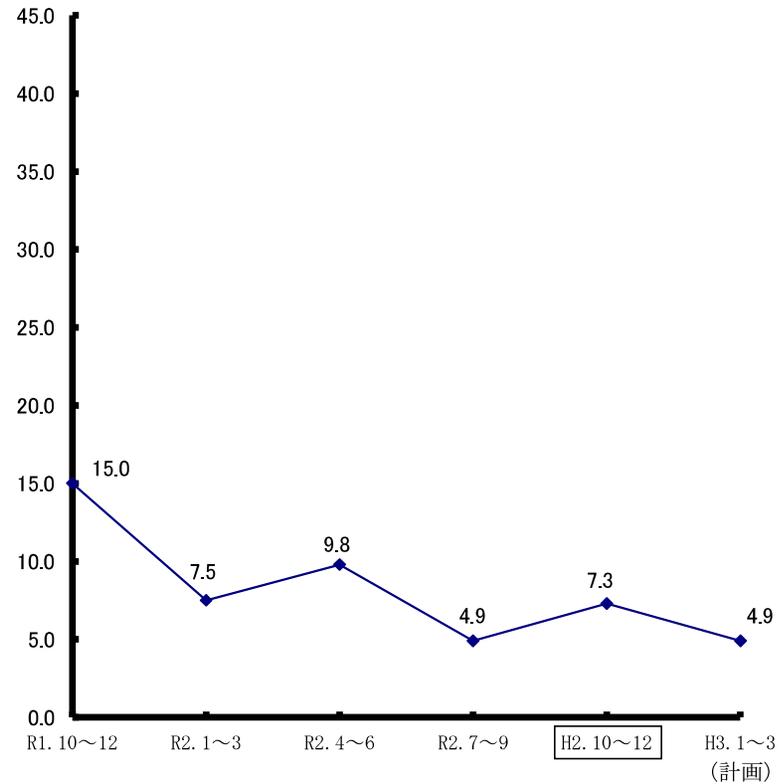
来期は、採算の好転を予想する企業割合が減少し、また、採算の悪化を予想する企業割合も増加するため、採算D・Iは再び低下に転じてマイ



設 備 投 資

前期は減少に転じていた設備投資を実施した企業数の割合は、今期は増加となり、7.3まで上昇しました。

来期は、設備投資を計画している企業数の割合が再び減少に転じ、4.9まで低下する見通しです。



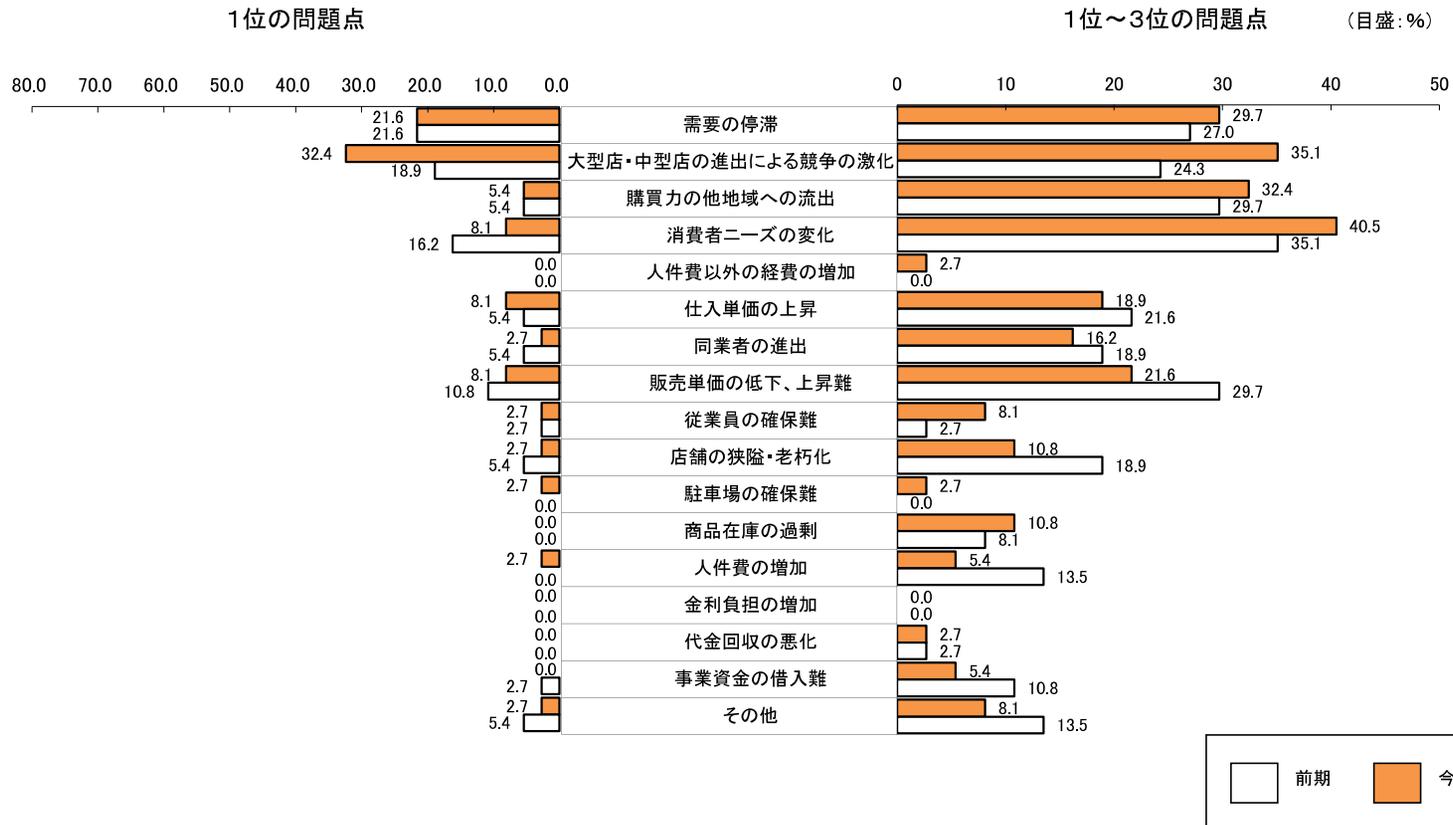
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

小売業の推移

経営上の問題点

岩手県 小売業

経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)



サービス業の推移

売上高

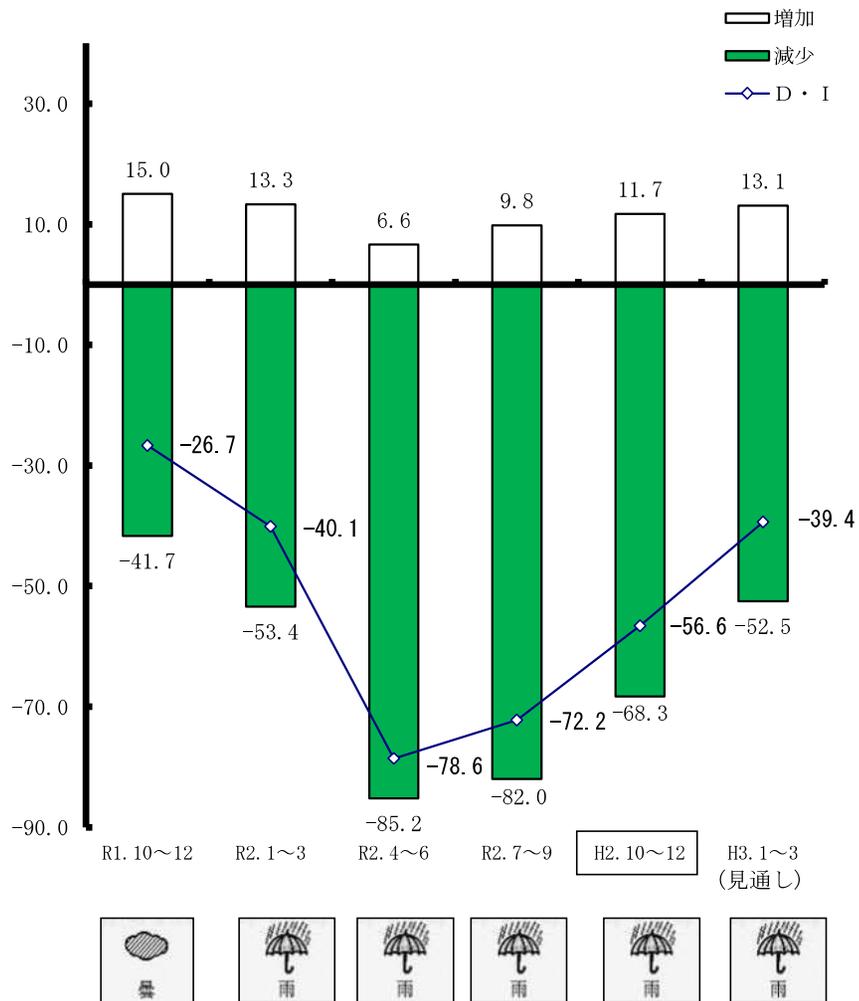
<今 期>

<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が1.9ポイント増加し、また、売上高減少企業の割合が13.7ポイント減少したため、売上高D・Iは15.6ポイント上昇してマイナス幅を縮小し、△56.6まで回復しました。

来期は、売上高増加を予想する企業割合が増加し、売上高減少を予想する企業の割合も減少することから、売上高D・Iは引き続き大幅に上昇してマイナス幅を縮小し、△39.4まで回



サービス業の推移

採算

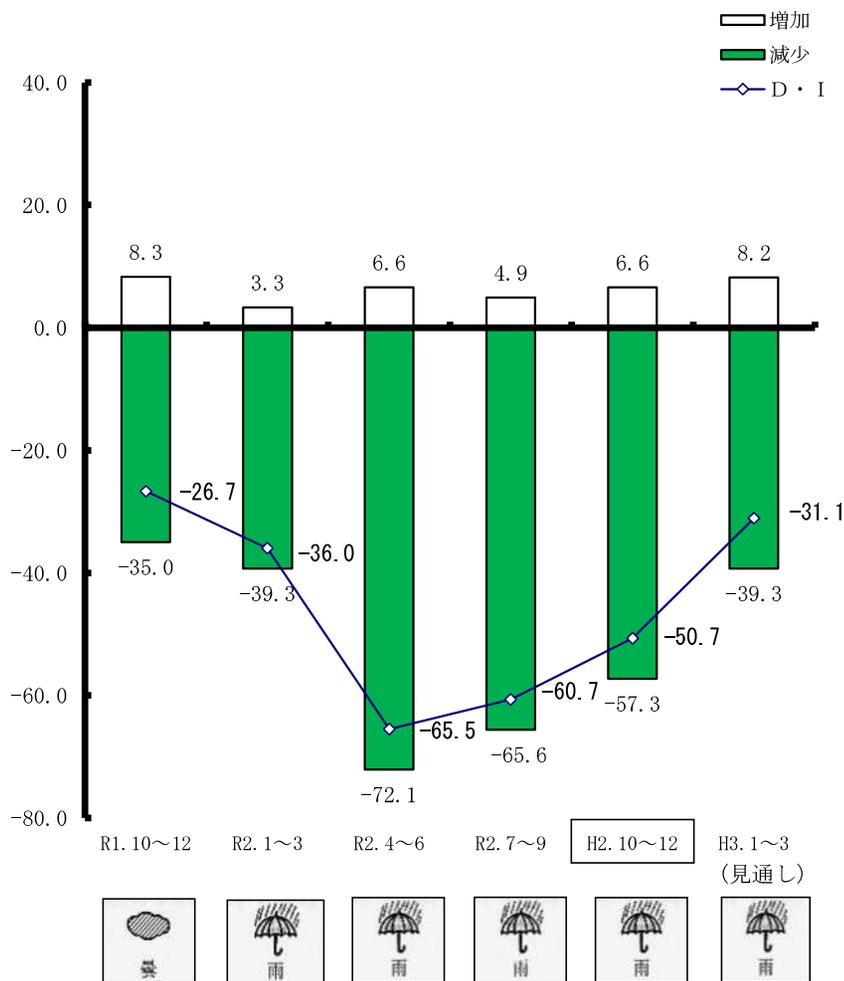
<今 期>

<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業割合が1.7ポイント増加し、採算が悪化した企業割合が8.3ポイント減少したことから、採算D・Iは10.0ポイントの上昇となり、△50.7まで改善しました。

来期は、採算の好転を予想する企業割合が引き続き増加し、採算の悪化を予想する企業割合も引き続いて減少することから、採算D・Iはマイナス幅を大幅に縮小して△31.1まで改善する見通しです。

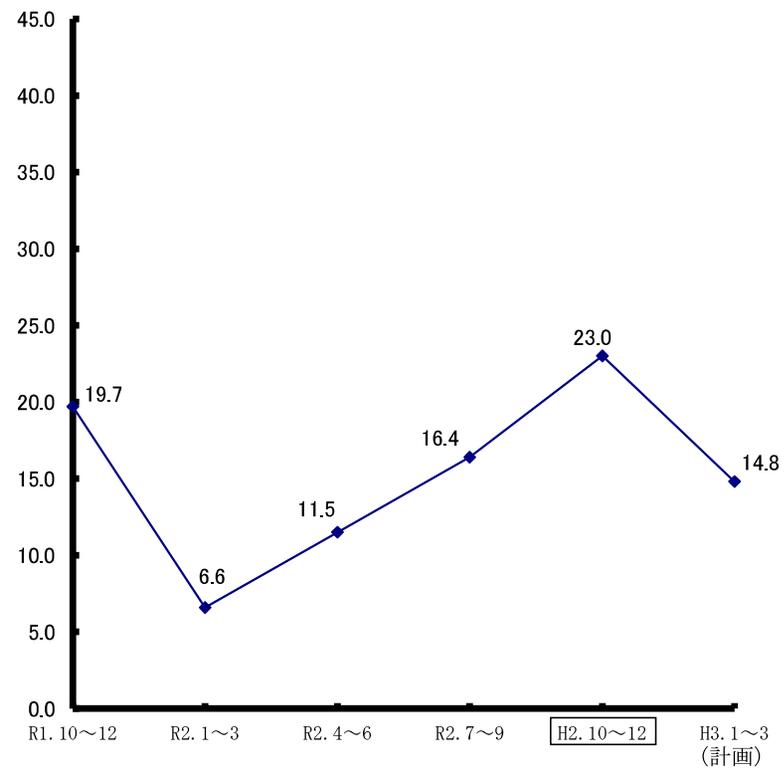


サービス業の推移

設備投資

2期連続して増加していた設備投資を実施した企業数の割合は、今期も引き続き増加して3期連続の増加となり、23.0まで上昇しました。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は減少に転じ、14.8まで低下する見通しです。



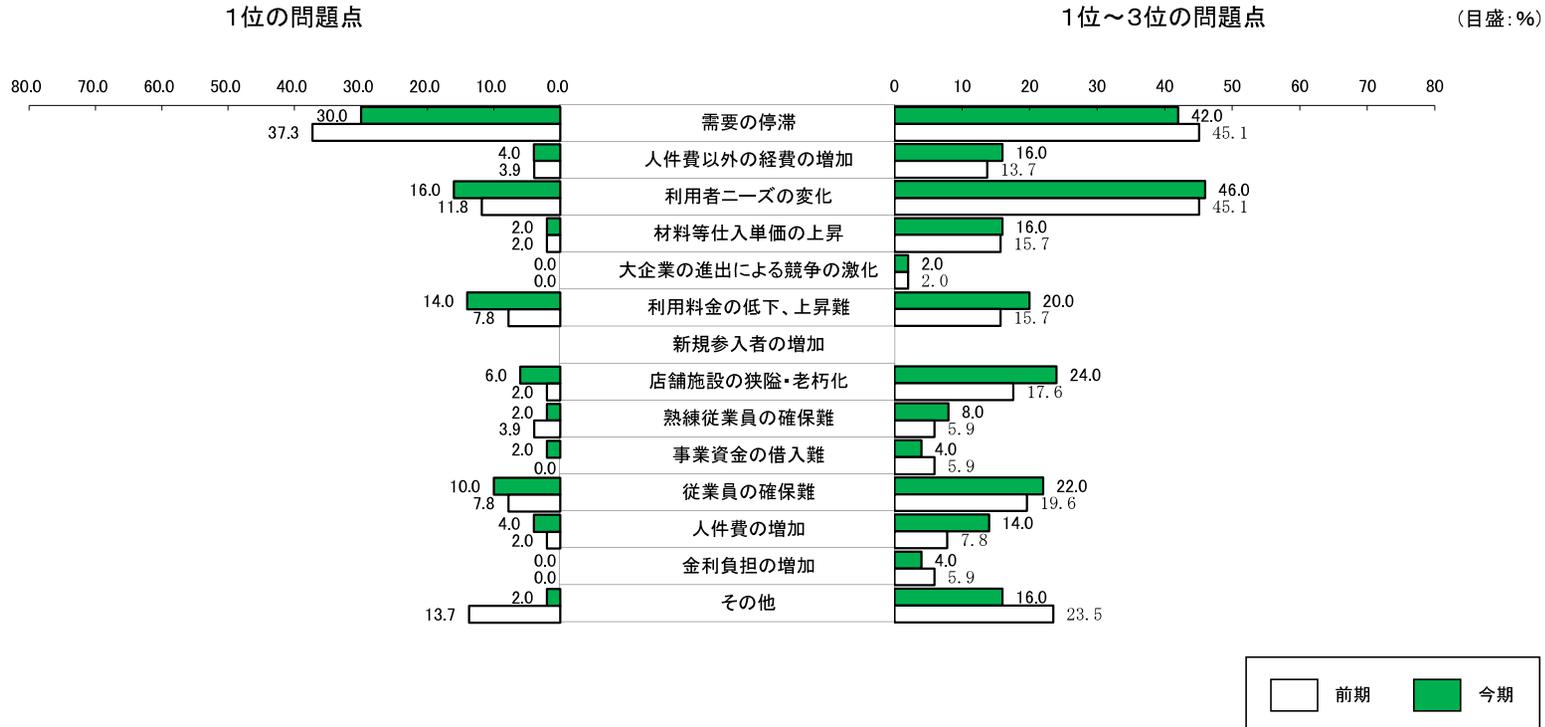
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

サービス業の推移

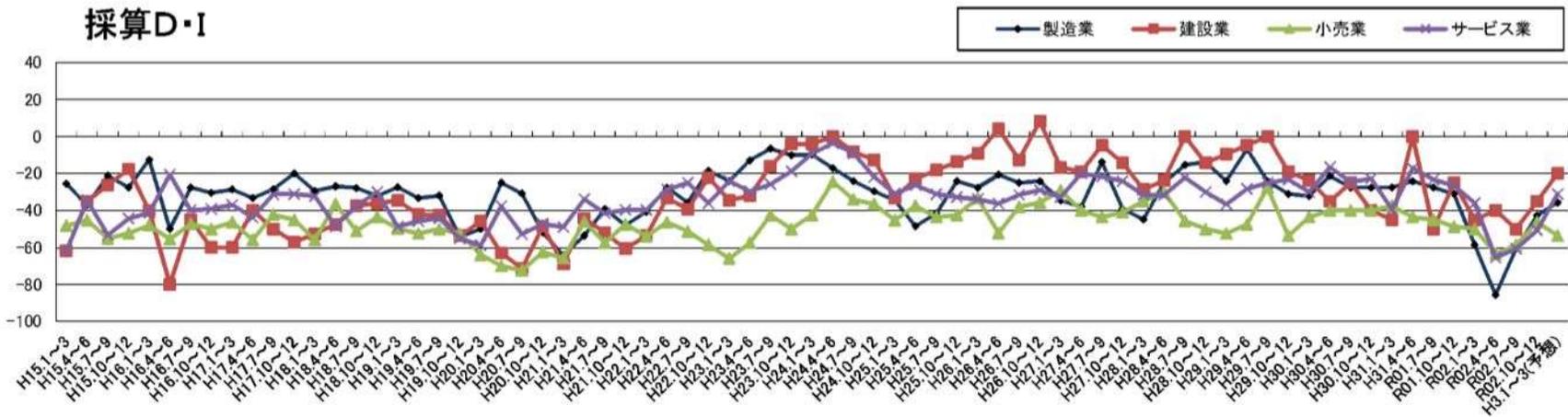
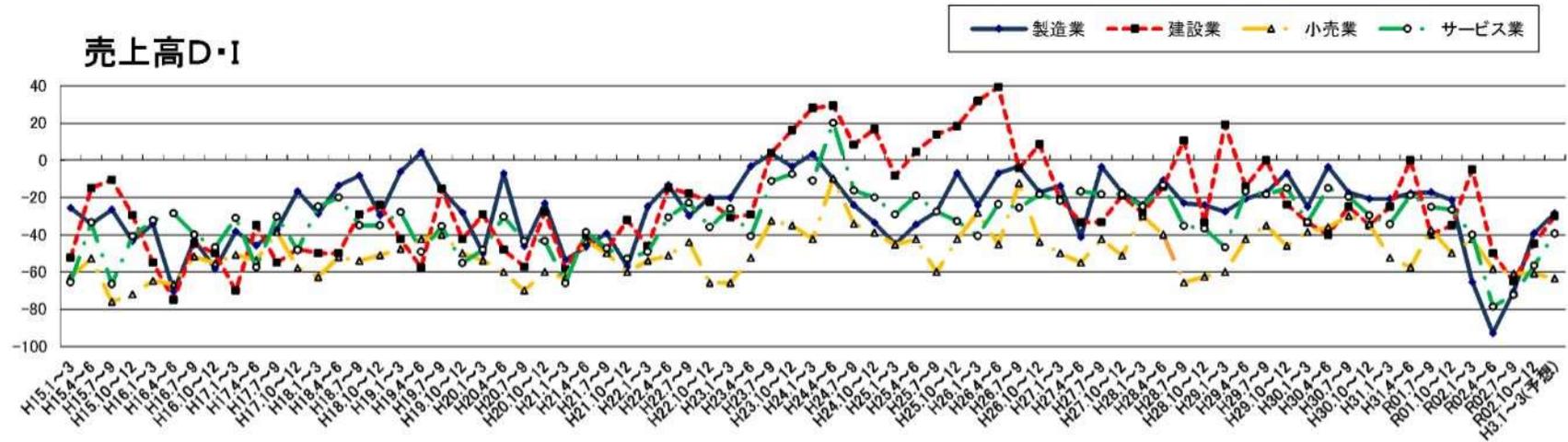
経営上の問題点

岩手県 サービス業

経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)



全産業の過去データの推移(平成15年1月以降)



集 計 資 料

調 査 要 項

1. 調査対象 (1) 対象地区 県内10商工会地区 八幡平市、滝沢市、矢巾町、平泉、住田町
(商工会名) 大槌、山田町、野田村、洋野町、一戸町
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 150 企業
2. 調査対象期間 令和2年10月～12月を対象とし、調査時点は令和2年11月15日としました。
3. 調査方法 (1) 商工会の経営指導員が訪問面接し、聞き取りにより行いました。
(2) 調査対象地区の設定は、商工会地区市町村人口規模別の実態を勘案して行い、調査対象事業の抽出は、業種規模等有意選出により行いました。

4. 対象企業等内訳

業種 \ 項目	対 象 企 業 数	回 答 企 業 数	回 答 率 (%)
製造業 (地域産業)	28 (18.7)	28 (18.7)	100.0
建設業	20 (13.3)	20 (13.3)	100.0
小売業	41 (27.3)	41 (27.3)	100.0
サービス業	61 (40.7)	61 (40.7)	100.0
	150 (100.0)	150 (100.0)	100.0

(注) カッコ内の数字は、構成比 (%) を表す。

5. その他 本報告書中のD・Iとは、ディフュージョン・インデックス (景気動向指数) の略で、各調査項目についての増加 (上昇、好転、長期化) 企業割合と減少 (低下、悪化、短期化) 企業割合の差を示すものであります。